

児童生徒理解・教育支援シート（試案）

記入例B

中学校1年生の4～5月に欠席が目立ったため、
学年別シートを5月中旬に作成した。
しかし、1学期に欠席が30日を超えたことから、
夏休みにケース会議を行ったケース

(小)

〇〇区立虎門小学校

(中)

〇〇区立虎門中学校

(高)

文部 B子

児童生徒理解・教育支援シート(共通 シート)

作成日:平成〇年〇月〇日

作成者 HO(記入者名) 追記者 HO(記入者名)／HO(記入者名)／…

名前	性別	生年月日
文部 B子(もんぶ びいこ)	女	平成14年5月22日

○学年別欠席日数等	追記日→	○／○												
年度								H27						
学年	小1	小2	小3	小4	小5	小6	中1	中2	中3	高1	高2	高3	高4	
出席しなければならない日数														
出席日数														
別室登校														
遅刻														
早退														
欠席日数														
指導要録上の出席扱い														
①教育支援センター														
②教育委員会所管の機関(①除く。)														
③児童相談所・福祉事務所														
④保健所、精神保健福祉センター														
⑤病院、診療所														
⑥民間団体、民間施設														
⑦その他の機関等														
⑧IT等の活用														

○支援を継続する上での基本的な情報

特記事項(本人の強み、アセスメントの情報等)

○家族関係

特記事項(生育歴、本人を取り巻く状況(家族の状況も含む。)、作成日以降の変化等)

備考欄

児童生徒理解・教育支援シート(学年別 シート)

担任名 ○○ ○○

作成日 平成27年5月18日

作成者 担任 追記者 ○／○(記入者名)、○／○(記入者名)、…

管理職名 校長・○○ ○○

名前	性別	学校名	学年	学級
文部 B子(もんぶ びいこ)	女	虎門中	1年	1組

○支援チーム(校内・校外)

校内不登校対策委員会(担任、学年主任、学年生徒指導担当、校長、教頭、養護教諭、生徒指導主事、部活顧問)、教育相談部会、教育支援センター(田中指導員)、佐藤SC、区教委(鈴木指導主事)

○月別欠席状況等

※追記日→

○月別欠席状況等		※追記日→														
月		5/18	6/1	7/1	7/23											
		4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計		
出席しなければならない日数		15	18	22	13		20	21	19	18	15	19	18	198		
出席日数		13	10	11	3									37		
別室登校		0	0	0	0									0		
遅刻		3	5	5	3									16		
早退		0	1	4	3									8		
累積欠席日数		2	10	21	31		31	31	31	31	31	31	31	31		
欠席日数(出席扱いを含む)		2	8	11	10									31		
指導要録上の出席扱い		0	0	0	0									0		
①教育支援センター		0	0	0	0									0		
②教育委員会所管の機関(①除く。)		0	0	0	0									0		
③児童相談所・福祉事務所		0	0	0	0									0		
④保健所、精神保健福祉センター		0	0	0	0									0		
⑤病院、診療所		0	0	0	0									0		
⑥民間団体、民間施設		0	0	0	0									0		
⑦その他の機関等		0	0	0	0									0		
⑧IT等の活用		0	0	0	0									0		

○不登校(継続)の理由

・部活動での人間関係(7/23)

○本人の状況・意向

1学期 5/18、7/23	2学期	3学期
<ul style="list-style-type: none"> ・5月のGW後に、体調不良を理由した欠席が急増。 ・5月の教育相談部会で情報共有→シート準備へ。 ・学級では、友達と楽しそうに過ごしている。 ・部活内での人間関係について、生活ノートに記述あり。上達せず、みんなの足を引っ張っていると思っている。(吹奏楽部)→話を聞いたが、「大丈夫、頑張れる」と言っていた。 <p>-----</p> <ul style="list-style-type: none"> ・6月最終週で欠席が20日を超え、休みがちな状況の継続から、不登校対策委員会(6/29)において情報共有、組織的対応を決定。 ・7月にSCとの面談を計画。本人も話してみたいという希望があった。 		

○保護者の状況・意向

1学期 7/23	2学期	3学期
<ul style="list-style-type: none"> ・欠席の連絡はもらえている。 ・母親から、体調不良ながら、欠席が増えて心配だと相談された(5/10)ので、学校の様子を伝え、今後も連絡を取り合うことを約束した。SCとの面談ができることも伝えた。 		

○具体的な支援方針

	目標	具体的な支援内容		経過・評価
		学校	関係機関	
1学期		<ul style="list-style-type: none"> ・個人面談(教育相談：担任、学年) ・部活内の人間関係把握(顧問) ・保護者との連携(担任) 	・SC(区教委)	本人に寄り添うよう支援してきたが、欠席が増えている。保護者とは連携できている。SCの面談後に対策委員会を開催し、組織的対応を確認した。
2学期	<ul style="list-style-type: none"> ・本人の抱える問題の把握と組織的な初期対応 ・保護者との信頼関係の構築 <p>※8月含む</p> <p>7月23日</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・個人面談(教育相談) ・部活内の人間関係構築 ・保護者との連携 	<ul style="list-style-type: none"> ・SC(区教委) ・教育支援センター 	
3学期				

○次年度への引継事項(支援・指導の参考となるエピソード等も含め、多様な視点で記入)

児童生徒理解・教育支援シート(不登校対策委員会記録)

日付 H28.7.23

記録者 学年生徒指導担当

学年・組	名前	参加者・機関名
1年1組	文部 B子	不登校対策委員会(担任、学年主任、学年生徒指導担当、校長、教頭、養護教諭、生徒指導主事、部活顧問、相談室相談員)、佐藤SC、鈴木指導主事(区教委)

○本人の意向

・「部活を続けたいという思いと辞めたいという思いが交錯して、どうしていいか分からない。」と言っている。結果として、学校に行きづらくなっている。

○保護者の意向

・学校の対応に不満はない。しかし、欠席が長期化するにつれ、不安が大きくなっている。どうすべきか悩んでいる。

○関係機関からの情報

・SCの面談から

・部活が辛い。部活の同級生は、小学校からの経験者が多く、自分は同じようにできない。練習してもなかなか上達しない。友達は気遣ってくれるが、本心は馬鹿にしていると思う。部活を辞めたとしても、顔を合わせるのは辛い。どうしていいか分からない。
・家で勉強はしているが、授業に出ないことが多くなって、分からないところも出てきている。勉強も心配。このまま学校に行けなくなるのは嫌だけど…。どうすればいいか分からない。

○支援状況

支援目標		
・本人の不安を取り除き、学校へ来られる環境を整える。		
機関・分掌ごとの役割分担	短期目標	経過・評価
部活顧問	吹奏楽部の生徒への聴き取り、指導・受入れ体制の整備(楽器の変更含む。)	
担任・学年	本人への支援・学級の指導 家庭への働き掛け	
不登校対策委員会	相談室での学習へのフォロー 家庭訪問への同行	
生徒指導主事	いじめ防止委員会との連携	
管理職	重大事態への対応。区教委と連携	
区教育委員会	SCとの連絡調整 教育支援センターへの情報提供 区いじめ問題対策委員会の調整	

○確認・同意事項

・いじめの可能性もあるので、顧問による聴き取り調査を実施。いじめ防止委員会とも連携する。
・不登校対策委員会で組織的な対応を行う。校内で情報共有を行う。
・学級以外の居場所を検討する。相談室への登校ができれば、学習支援を学年中心で行う。
・不登校の状況が改善しない場合は、教育支援センターへの通所も提案する。
・本人の意向をしっかりと把握するために、SCへの相談は継続する。保護者の不安もSCに聞いてもらえるようにする。

○特記事項

--